

● CNCP はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」

## 第 3 回 古辞書の「土木」

平安末期（1144～1181）に成立した『色葉字類抄（橘忠兼）』は、頭音によって「いろは」47 部に分け、さらに意味によって天象・地儀など 21 門に分けた辞書である。漢字の四隅に点を打って、読み方（声調）を表す「四声」が付されており、当時の読み方の手掛りが得られる点で重要な文献とされている。

「土木」は「度（と）」の部の「畳字（二文字以上の漢字で構成される熟語）」の門に「土木 伎芸 トホク 工匠分 又造作名也」とある。

「伎芸」は美術・工芸の技術、わざの意味、「トホク」は漢語の読みであり、声点は「土」の右上に一点、「木」の右下に二点の「去入濁」という調子の発音で、単純に表記すると「トボク」である（写本によっては「平入濁」もある）。「工匠分」は語分類が工作の職人、大工であることを示す。末尾にある「〇〇名也」は同義語〇〇を表し、「造作」はつくること、建物をつくることである。

本稿連載の第 1 回で紹介した国史における『日本後紀』の「盡土木妙製」と『続日本後紀』の「爾乃土木之細工終焉」はわざの「伎芸」、『日本三代実録』の「土木工夫並従事」は大工の「工匠」と解釈できる。建物をつくる「造作」は、第 2 回で紹介した『権記（藤原行成）』の「不費土木之功力」と『明月記（藤原定家）』の「土木之壮麗、荘嚴之華美、天下第一之佛閣也」などが該当する。

鎌倉初期までの「土木」は「宮殿・社殿などの大がかりな工事」を意味するとしてよさそうだ。

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

## Vol.51 コンテンツ

巻頭言	大阪北部地震のインフラ被害にみるレジリエンスの必要性	井上 利一	2
コラム	CNCP は建設界を変えられるか	野村 吉春	3
明治 150 年企画(11)	わが国における「世間」の存在と変革の難しさ	皆川 勝	6
会員紹介	美(うま)し国づくり協会		8
部門活動紹介	月刊 CNCP 通信第 50 号発刊に当たって	有岡 正樹	9
シドニー視察旅行記 (8)	豪州における公共事業民営化・道路 PPP	大島 邦彦	11
サポーターからの投稿	言葉の地図	松田 和繁	14
イベント案内	CNCP・SLIM JAPAN 共催 「合同シンポジウムーアセットマネジメントを自治体行政に活かすにはー」		15
事務局通信			17